

第 1 回検討委員会における委員意見

1. エコパークゾーンとの一体的整備

- ・機能については、エコパークゾーン全体を考慮し、盛り込みすぎず、絞り込むことが必要。
- ・生物生息環境の創出においては、対象や目的に応じ、造成や施工の方法が異なるので、和白干潟との関係を十分考慮しながら決めていく必要がある。
- ・博多湾の貧酸素の問題など周辺環境の改善についても検討して取り組むべき。

2. 環境学習機能の重点化

- ・情報発信・交流拠点について、情報発信は受け身なイメージなので、環境学習として市民に積極的に関わってほしい。
- ・「海に親しむ」ことで環境学習や社会学習ができる場となってほしい。
- ・残した干潟の重要性について学習できる場所にすべき。
- ・市が実施しているアマモ場の造成などを参考に、環境学習の場を提供していくことが必要。
- ・環境学習に来た子供たちに将来像を見せることが必要。
- ・雨水が入り込むような池があると、生物多様性に関する環境学習などに大いに活用できる。

3. 人の利用（にぎわい）、自然優先エリアの区分

- ・にぎわいをもたせるところと、ある程度人の立ち入りを制限し自然を優先させていくところに分けることが重要。
- ・野鳥の休息場を整備する場合、シギ・チドリ類など敏感な野鳥は、利用する人との距離に配慮し、人の導線や姿が見えない工夫などが必要。
- ・見晴らしのよい築山はよいアイデアである。

4. 市民共働，にぎわいづくり

- ・市民共働の中で管理も含めて市民がどのように関わっていくかの検討が必要。
- ・過去の事例（松の植樹，縁石へタイルを埋めて銘を入れるなど）を参考にし
てはどうか。
- ・市民が木を持ち寄って植えることができる場を検討してはどうか。
- ・みんなが行きたくなるにぎわいのある施設にしたい。
- ・小学生の学習の場にする事で週末には親を連れてくる事が期待でき，に
ぎわいにつながるのでは。

5. 整備にあたっての留意点

- ・時代によって考え方が変わってくるので，それに対応できる仕組みがあると
よい。
- ・夜間の安全対策も重要。
- ・現在，自生している植物は，今後の公園造りに活用あるいは参考になると考
えられる。

6. その他

- ・寄付による整備についての可能性や企業のCSR活動を取り込む方法につい
ても検討してはどうか。
- ・野鳥公園という名称については，干潟の重要性を伝える場としてふさわしい
ものなどを考えてはどうか。
- ・傷ついた野鳥を治療する場があるとよい。